

小室葉外堂 あきつゝ 政論家、小説家。嘉永五年七月二十一日丹後國
 生れ、明治十八年八月二十五日歿（八五—八六）。舊姓小笠原、本名信
 介、字順叔、幼名錦（鏘）吉、少、前名小笠原長道。別號大江山人、大
 江山人葉山子、小室吾新、小室吾荒太、山陰葉山子、葉外坊、葉外堂
 主人、葉山子、蛙の家あむじ長道、鼓政書屋主人。宮津藩士の四男、
 のち實業家小室信夫の養子となる。中治のこに漢學を學ぶ。明治九年
 國會開設運動に加はり、十一年「京都日日新聞」を創刊。翌年「大阪
 日報」に入り、のち社長となりて自由民權の論陣を張る。十五年板垣
 退助の遭難の際、「板垣死ヌトモ自由ハ亡ビズ」を題して鼓篋を演説。
 新聞「自由燈」創刊の參與者、参述。

著書 「大日本夜話・初集」（小笠原長道名、宮本爲一郎編書、明治七
 年九月奎生堂）、「自由艶古女文章」全二册（葉外堂主人名、齋藤家
 書家編、明治十七年九月自由燈出版會）、「東洋民権百家傳」（本名、
 林基扶校訂、昭和二十一年七月二十五日岩波書店「岩波文庫」）等。

